

カンキツ果実腐敗（貯蔵病害）に対するベフラン液剤の特性

〔要約〕ベフラン液剤は、カンキツ果実腐敗（貯蔵病害）に対して防除効果が高く、耐性菌も出現していないが、トップジンM水和剤より耐雨性が低く、残効期間が短い。なお、本剤散布後に累積降水量が100mmを越えた場合の防除効果は期待できない。

長崎県果樹試験場・病害虫科

専 門

作物病害

対 象

果 樹 類

分 類

指 導

平成 9年度長崎県果樹試験場業務報告

〔背景・ねらい〕

早生種を主体に県内の各カンキツ産地で果実腐敗が多発した。そこで、ベフラン液剤の特性及び防除効果について検討する。

〔成果の内容・特徴〕

- ①ベフラン液剤の防除効果は高いものの、トップジンM水和剤と比較して耐雨性が低く、残効期間が短い。
- ②ベフラン液剤は、散布後45mm以下の累積降水量があっても防除効果はそれほど低下しないが、100mmを越える累積降水量の場合の防除効果は期待できない。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①ベフラン液剤は、緑・青・白かび病に対して防除効果が高く、また、耐性菌も出現していないので、効果が安定している。しかし、耐雨性が弱いので連続降雨がある場合は、ベフラン液剤の2回散布またはトップジンM水和剤との併用が必要である。
- ②耐雨性や残効の問題から、ベフラン液剤を使用する場合は極早生及び早生種を対象とし、収穫7日前までに散布する。なお、トップジンM水和剤の場合は普通種及び中晩柑類を対象とし、収穫前日前までに散布する。

[具体的データ]

表1 カンキツ果実腐敗に対する各種薬剤の防除効果（立木試験）

供試薬剤	使用濃度 (倍)	調査 ² 果数 (果)	有傷処理後の腐敗果数(果)						腐敗 果率 (%)	
			7日後	14日後	21日後	28日後	35日後	42日後		合計
ベフラン液剤	2,000	60	1	1	1	2	1	0	6	10.0
トップジンM水和剤	2,000	60	0	0	1	0	1	0	2	3.3
無散布	—	60	3	13	21	9	0	2	48	80.0

供試品種：‘吉田ネーブル’

散布時期：12月3日（翌日の12月4日に虫ピンで約30か所有傷処理）

² 果実は試験が終了するまで、樹に着果させたままとした

表2 カンキツ果実腐敗に対する各種薬剤の防除効果（貯蔵試験）

供試薬剤 及び 累積降水量	使用濃度 (倍)	調査 ² 果数 (果)	貯蔵後の腐敗果数(果)				合計	腐敗 果率 (%)
			14日後	1ヵ月後	42日後	2ヵ月後		
12月16日収穫(降水量0mm)								
ベフラン液剤	2,000	155	4	3	7	5	19	12.3
トップジンM水和剤	2,000	153	9	3	2	0	14	9.2
無散布	—	156	38	21	17	6	82	52.6
12月24日収穫(降水量44.5mm)								
ベフラン液剤	2,000	153	3	6	6	16	31	20.3
トップジンM水和剤	2,000	153	19	4	5	0	28	18.3
無散布	—	153	20	10	10	10	50	32.7
1月7日収穫(降水量107.0mm)								
ベフラン液剤	2,000	153	14	33	10	3	60	39.2
トップジンM水和剤	2,000	155	6	9	7	1	23	14.8
無散布	—	169	18	27	24	14	83	49.1

供試品種：‘青島’（浮皮果多い）

散布時期：12月16日

² 果実は収穫後、常温貯蔵（室温14～22℃，湿度90%以上）

[その他]

研究課題名：果樹の特殊病害虫発生状況調査

予算区分：県単

研究期間：平成9年（昭和58年～）

研究担当者：古賀敬一，西野敏勝

既発表論文等：平成9年度 長崎県果樹試験場業務報告